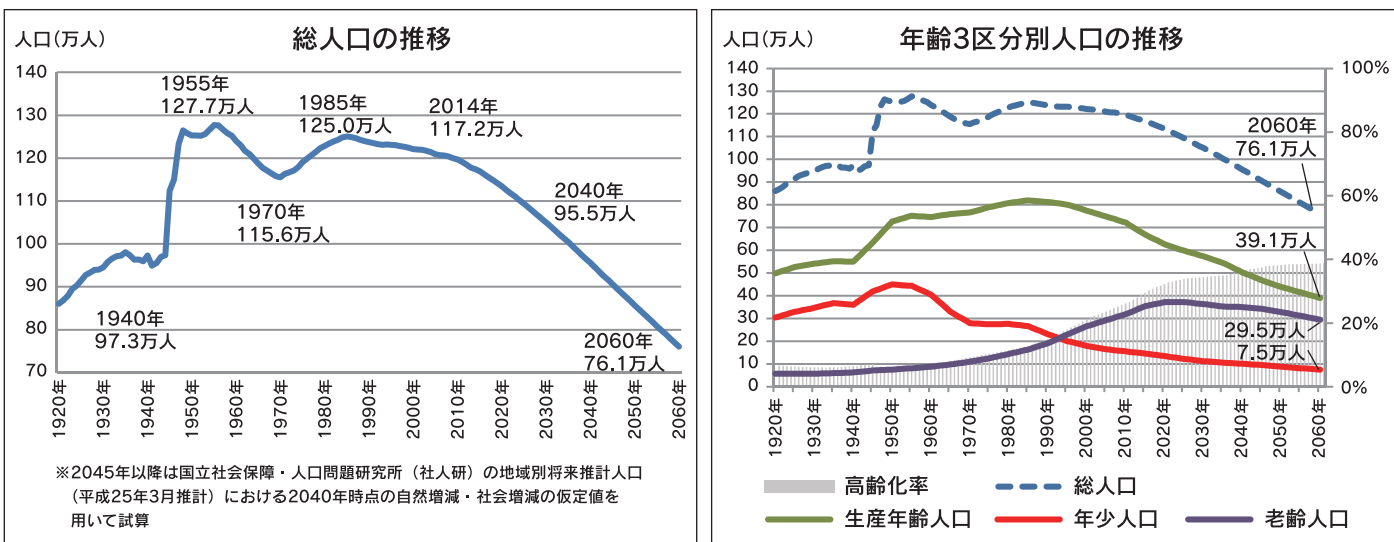


人口減少に歯止めをかけ、長期的に100万人近い人口を維持するために ～「大分県人口ビジョン」の概要～

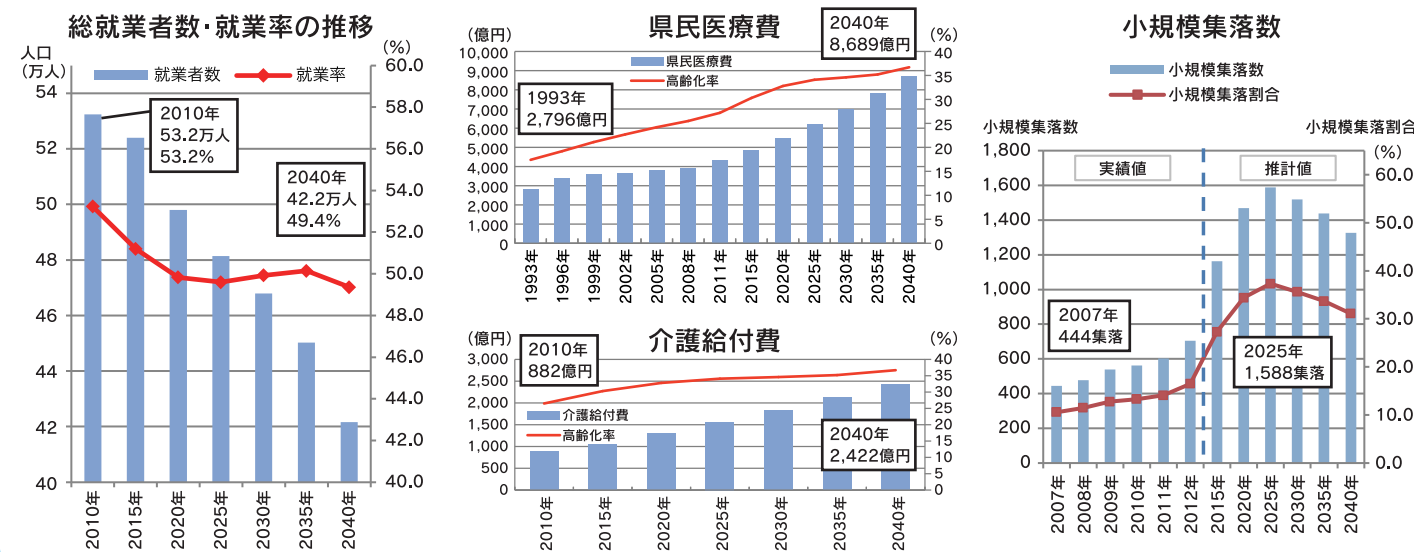
人口の推移

- ・このまま何もしなければ、2060年には人口が2014年と比較して3分の2以下に減少します。
- ・少子高齢化もさらに進み、2060年の高齢化率は約4割に達する見込みです。



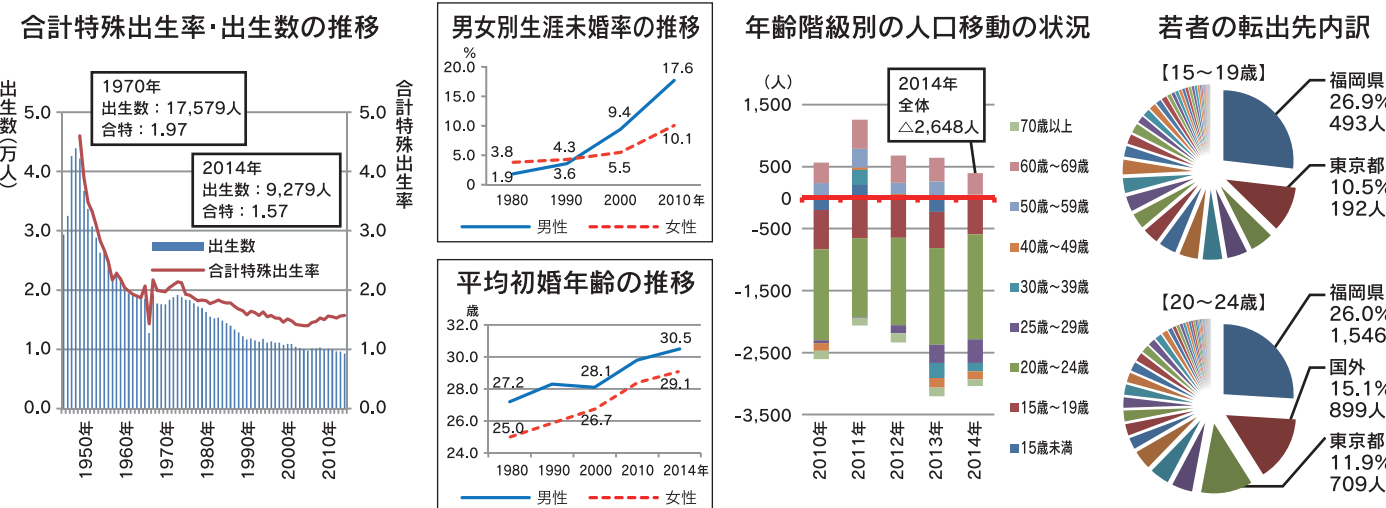
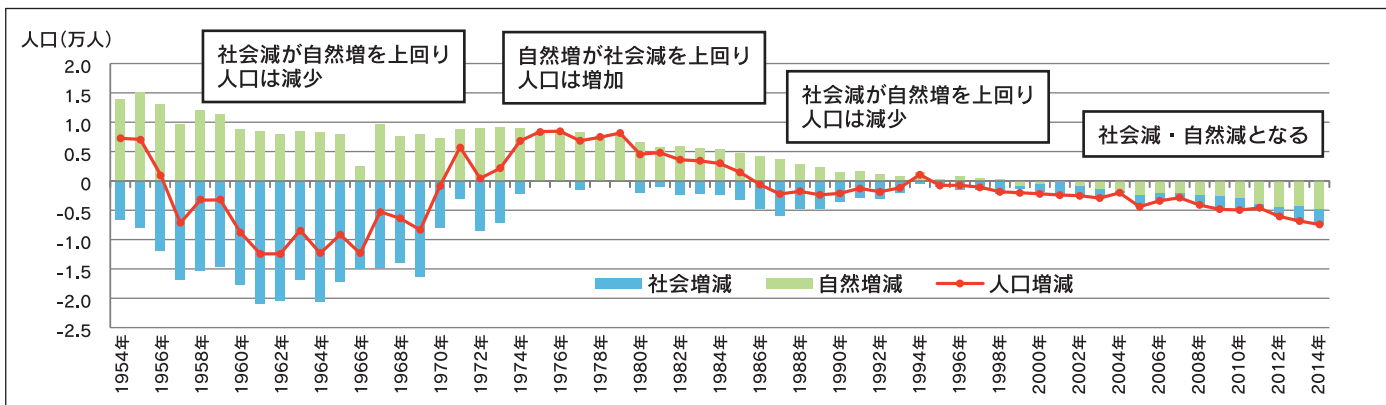
人口減少・少子高齢化の影響

- ・人口減少と少子高齢化が進むことにより、就業者の減少や医療・介護給付費の上昇、小規模集落の増加など、さまざまな影響が懸念されます。



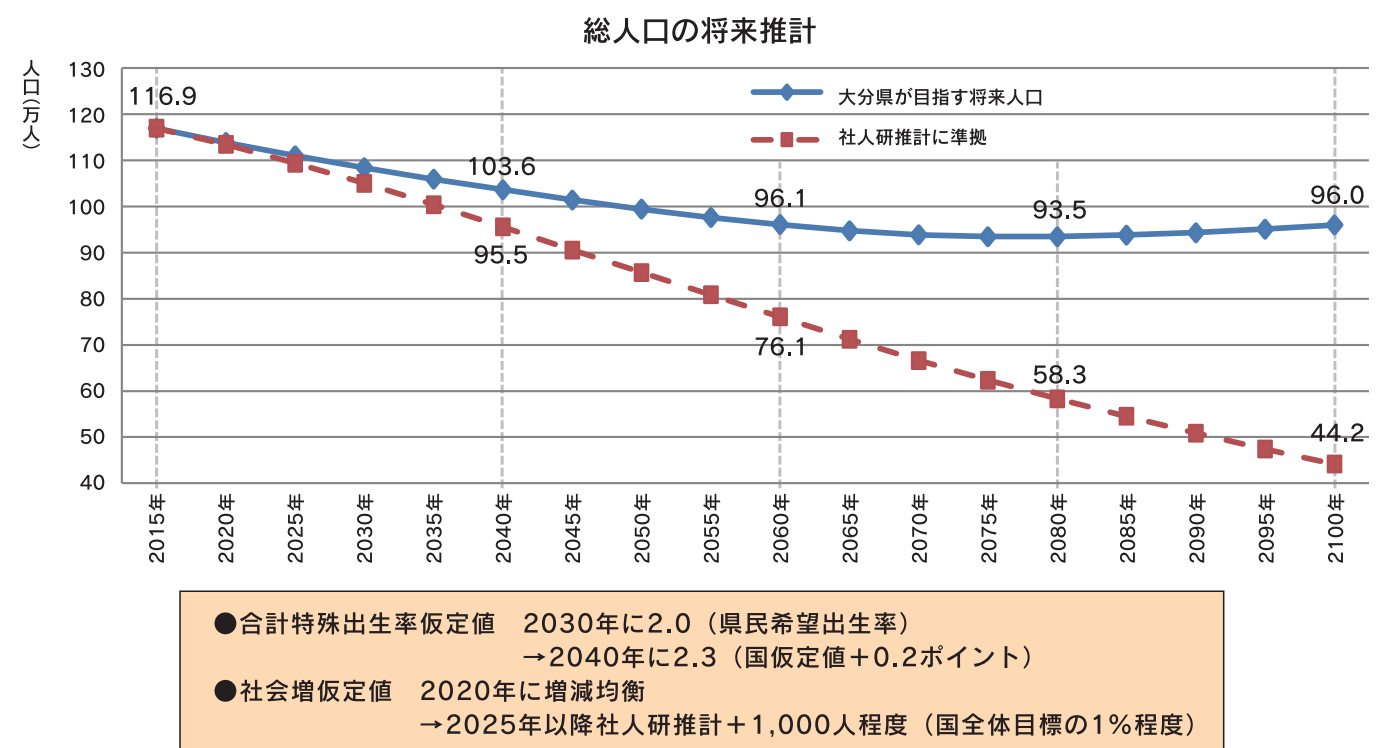
自然増減(出生・死亡による人口増減)・社会増減(転入・転出による人口増減)の推移

- ・1999年以降、自然減・社会減が同時に進行しています。
- ・自然減の要因として未婚、晩婚、晩産化など、社会減の要因として若年層の県外流出などが考えられます。



人口の将来展望

- ・県民の結婚、妊娠、出産、子育ての希望の実現に向けた取組や、仕事をつくり、仕事を呼ぶ取組など、自然増・社会増の両面の取組を今まで以上に進めることにより、人口減少カーブを緩やかにし、2100年(今世紀末)もなお、100万人近い人口を維持することが可能になります。



人口の将来展望の実現に向け、「まち・ひと・しごと創生大分県総合戦略」を策定し、県民の皆様とともに「大分県の地方創生」を進めていきます。